

琉球大学学術リポジトリ

リンクス - 近代ヨーロッパにおけるその生態と保全

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学21世紀COEプログラム 公開日: 2007-10-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: シュミット, クリス メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/2192

リンクス - 近代ヨーロッパにおけるその生態と保全

クリス・シュミット (Mammal Research Institute, Białowieża, Poland)

ヨーロッパリンクス *Lynx lynx* はかつてヨーロッパの大部分の地域に生息していた。しかし、今日ではその分布はヨーロッパの東部とフェノスカンディアにまで縮小し、基本的には広い森林の分布に依存している。ヨーロッパリンクスは生態の可塑性が高いが、人間の影響に関連した様々な地域的な圧迫に弱い。ポーランドでは、リンクスは北東のいくつかの混成した森林や南部の山岳地帯に生息している。十分な保護にも関わらず、最近 10 年の間に生息地は減少している。保護のための基本となる知識を得るために、リンクスの生態についての研究が 1991 年から Białowieża Primeval Forest (BPF) においてラジオ・トラッキング法を用いて行なわれてきた。リンクスの主な死亡原因は、人間に関連しているものであることがわかった。過去の過度の狩猟と現在の密猟である。リンクスが好む餌動物は有蹄類であり、特にノロジカはリンクスのえものの 62% を占める。BPF のリンクスの個体群は 1 年間に 100 km² 当たり 110~170 頭のノロジカを捕獲する。リンクスによる捕食の影響に加え、集中的な狩猟やオオカミによる捕食が原因で 1991 年から 1995 年にかけてノロジカの個体群は 2 倍も減少した。この個体群の減少はリンクスの繁殖に悪影響を及ぼした。リンクスの行動圏サイズがオス (248 km²)、メス (130 km²) ともにとても大きいのは、ノロジカに大きく依存しているためだと考えられる。実際、森林全体でリンクスはせいぜい 40~60 頭にすぎないだろう。中には、特に若いオスは、BPF から 100 km 以上離れたところまで分散した個体もいた。これは、BPF のリンクスはより大きな個体群の一部であり、長距離分散は個体群の存続のために必要であるだろうことを示している。BPF でわかったこの結果はポーランドのその他の森林にも当てはまるように思われる。森林の著しい分断化は、分散や移住の過程を中断した可能性があり、近年のリンクスの減少の原因であるかもしれない。したがって、生息地の連続性を回復することとノロジカの密度を高い状態で維持することが、リンクスを長期的に存続させるために不可欠なことである。現在、生息地の分断化や他の要因がリンクスの個体群の遺伝的多様性に影響しているかを調べるために、リンクスの遺伝学に関する研究が行なわれている。ヨーロッパリンクスの分布域の端に位置する隔離個体群は、遺伝的多様性の減少を経験してきたかもしれずそれは彼らの生存を脅かすことになるかもしれない、と考えられる。